

<第3報告>

JAグループの農作業安全とGAPの取り組み

高橋 昭博

(全国農協中央会 営農・くらし支援部
営農担い手支援課 JAグループGAP支援チーム)

JAグループの農作業安全 とGAPの取り組み

全国農業協同組合中央会 営農・くらし支援部
営農担い手支援課
JAグループGAP支援チーム
高橋昭博

今更ながらGAPで何をするの？

- 「GAP(良い農業)にする」ための実践
 - ①GAPの考え方(コンプライアンスの遵守・科学的根拠)
 - ②「GAPにする」自分の組織業務の見直しをJAとして行う
 - ③危険の回避、抽出手法と確認手法として生産者、JAともに行う
 - ④GAPは農場の健康診断(確認・記録・見える化)
- チェックリストと啓蒙活動だけでは農場の事故は防げない
- GAP認証は、認証が目的になっている感が否めない



研究者の皆さん、JA、生産者、農業現場で何が起きているか把握していますか？

- ・無免許
- ・法令違反
- ・労働事故による労基の指導
- ・死亡事故(本人)
- ・死亡事故(第三者を死亡させてしまった)
- ・怪我・倉庫での落下
- ・機械操作ミスでの身体の欠損
- ・施設内での中毒
- ・最低賃金以下での労働
- ・他



農業の労働安全における課題 (JA版)

- ・ 機械作業が多いが、どんな機械、どの目的で使う機械があるか分かっていない。生産者も過剰な機械投資になっている。
- ・ 機械を使用する際に、どんな資格が必要であったり、保険に何を入れる必要があるかよくわからない。
- ・ 講習会を受講しなくてはいけない機械もあるが、独断で始めてしまい、事故につながっている。もしくは、従業員に作業をさせている。
- ・ 機械自体の課題も大きい (世界基準?)
- ・ JAとして啓蒙活動だけでは、農業事故を減らすことにはならないことを分かっているならば、実態の把握や、免許、資格の把握をすることから始める必要があるが実態をつかみ切れていない。
- ・ 機械担当者は、納品時に大安吉日だけに捉われず、資格免許の確認と操作の説明が必須だが実施されていない。
- ・ 生産者が高齢すぎる

労働安全と福祉: 農作業安全のために。現場で実施支援



リスクの発見と評価・対策

- ① 注意すべき点
(どこが問題か)
- ② どうあるべきか
(なぜ問題か)
- ③ 改善すべき点
(どの程度問題か)
- ④ 改善方法
(どうすればいいか)



リスク評価の勉強会の実施

イラスト参照: 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター

6

実際にリスク評価をおこなった映像



雇用している人、事故が起きたらどうなるのでしょうかということをリスク評価で問いたです

- 農業は未だに、パート、アルバイトを雇う体制が整っていないと言われています。トイレ、保険、怪我、作業条件、事故があった時にどうしますか？
- 自分が勤でやっていて、事故にあつて作業が出来なければ経営は成り立たなくなります。
- 事故は様々な形で起こりうる等

8

運転免許及び検査について あらゆる資格、免許、保険大丈夫ですか？ GAP認証では資格免許の確認もします。

(コンバイン、トラクタ、スピードスプレー、田植機、乗用管理機、他)

1. 農耕車



道路を通行するには運転免許が必要です

	15km/h	35km/h
道路運送車両法	小型特殊自動車	大型特殊自動車
道路交通法	小型特殊か普通免許	大型特殊運転免許 (「農耕車に限る」の限定免許ある)

2. 特殊車両 フォークリフト、他

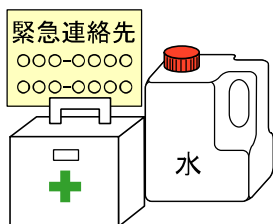
定期自主検査(特定自主検査)が有資格者によって1年毎に1回行い、記録は3年保管する

労働安全訓練は現場ではできていません

乾燥設備作業主任者、刈払機取扱作業者、はい作業主任者、けん引、フォークリフト等の資格や講習会は受講していないのが現状です。

労働安全と福祉：緊急に備えて

- ケガや事故が発生した場合への備え
 - 救急用具
 - 緊急時の連絡先
 - 応急手当 など
 - 水
 - 2セット以上用意



緊急時対応マニュアル

- ・事故発生・自己発見の場合、まず被害者の安全を確保する。
- ・必要な所に連絡する。(落ち着いて状況を説明し、指示を仰ぐ)

緊急時 救急車・火災：119番
警察・事故：110番

農場所在地：〇〇市〇〇町字〇〇 番地
農場責任者：携帯 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
自宅 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

電力会社：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
水道局：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
市役所：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

病院 △△外科病院 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
農薬事故 農薬110番(大阪) 072-727-2499
〇〇農協：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
普及センター：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
農機具販売店：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

- ・応急救置をする。(人命救助最優先)

AED装置所在地：〇〇公民館、△△コンビニ

- 【医療用具】：体温計、ハサミ、ピンセット、毛抜きなど
- 【衛生材料】：絆創膏、包帯、三角巾、綿棒、綿球、ガーゼ、脱脂綿、油紙など
- 【外用薬】：消毒用アルコール、オキシドール、うがい薬、目薬、湿布薬、軟膏など
- 【内服薬】：総合感冒薬、解熱剤、酔い止め薬、胃薬、整腸剤など

農薬散布の保護具



大概の生産者は、一般の風邪用マスク、もしくはマスクは使用していない。
ゴーグルの着用については何故するかすら知らない。

農業施設・設備の安全(こんなものの整理 ができていない)

	チェック項目	安全の確認	備考	
1	燃料タンク	防油堤で漏えい防止、屋内は換気	貯蔵量は指定数量内か	
2	油の付いた布	蓋付きの金属缶へ入れる	窒息消火	
3	保管	肥料	積み上げ高さ2m未満	崩れ防止、隙間(接触)
		農薬	保管庫とその鍵の管理	盗難防止
			洗車と廃棄	廃液処理
4	配電盤	ブレーカー毎の電源行き先表示	埃、端子の弛み	
5	ホイスト等	外れ止め、ワイヤーやスリング類	損傷の有無	
6	格納	作業機、刈払い機、他	定位置の表示	
7	開口部	落下防止の手すり	手すり高さ1m、幅木	
8	設備・機械	挟まれ巻き込まれ	回転部分、隙間	
9	工具室・工具	整理整頓	不要な物は置かない	
10	冷蔵庫・予冷库	庫前に置いてある物、庫内照明	フロンガスの場合は法令対象	
11				



野焼きも火災事故につながる



13

廃棄物の管理

- ・ 農場内に穴を掘り、資材の空容器や段ボールなどを焼却している。
- ・ (廃棄物の処理及び清掃に関する法律に違反)

事故例1: 移植機の昇降による転倒 2017年



事故例2: ブームスプレーヤー旋回中にスクーターにぶつかり男性死亡2020年



JAは農家の実態をしっかりと把握し、対策を生産者と共にしっかりと立てる(まずは免許の確認から)

- ・事故が起きてからでは間に合いません。これは、家族、パートの人も含めてです。
- ・JAは営農部全体で生産者の状況を把握し、機械担当者、営農担当者、生産者団体の長を集め、対策の落とし込み、実施。リスク評価を皆で実施することは有効。
- ・リスク評価の際に、LAも入ってもらい、保険の話を入れていく事で事業として回る。

15

JA全中の活動内容

(1)JAグループとしての農作業安全の啓発活動

- ・春(4~5月)と秋(9~10月)の年2回、JAグループとして農作業安全月間を設定し、ポスター(毎回約1万8千枚配布)を提供個別指導への取り組みを実施。

(2)農作業安全にかかる各種情報提供

- ・R3度においては、農作業安全規範の周知、農林水産省・農作業安全検討会、資料や研修用動画の作成と提供を本年5月に実施。農林水産省から提供される各種情報(具体例:熱中症予防PR対策、農業機械の公道走行に関する規制緩和の再周知等)を随時、JAグループ内へ周知。

(3)労災対策の推進

- ・労災保険制度への取り組みを支援するため、農業労災に関する情報提供や、JAグループの労災保険組合への相談対応等の支援

(4)国の検討会及び農業労災学会への参画

- ①農林水産省の「農作業安全検討会」への参加
- ②農業労災学会への参加



JAグループGAP支援チームとしてどんな対策と課題があるか。(支援チームの実務として)

【実施内容】

- ・ GAP支援チームを発足(2017年～ 現在) 支援数32JA
- ・ HACCP義務化に伴い、集荷場、選果場、CE、RCの手引き作成
- ・ 営農指導員認証テキストにGAPの項目を導入(令和4年試験から)
- ・ GAP認証を機に、産地コンサルの実施(営農事業の見直し・部会検討)
- ・ GAP認証支援を通じて、産地リレー化、販路拡大をグループとして対応
- ・ 認証以外のGH評価制度をTACや営農指導員のツールとして活用

【課題】

- ・ GAP支援チームが令和5年9月までの事業
- ・ GAP支援チームが無くなる事で、GAP推進力の低下
- ・ JAの生産組織、生産者へのグリップ力の低下
- ・ 営農指導、TACなどのツール化がまだ未整備

17

生産現場のGAP取組例



農業者の労働安全に対してJAとしてはやるべきこと

- 課題は多く、毎年の啓蒙活動は必要である。
- 課題が分からなければ、対策はたてられない。そのために何が現場で起きているのか**まずは実態の把握**(年齢、機械、過去のヒヤリハット、免許、資格等)し、**データベース化する。(労働災害だけではなく、JAの組合員としての取り組み)**
- JAは共済、金融、厚生連もある。その意味でも事故が減る、死亡事故を減らしていかない事には、事業運営にも影響が出る。**グループ全体での取り組み(横の連携が必要)**
- 各地域のJA内においては、営農の事業だけではなく、機械事業、LA、TAC、営農指導員、**チームとなり、地域農業を守るための対策を講じる**。(時には現場での指導、現場での作業にも携わる)
- 生産者だけではなく、JA内部での労災事故は多く存在する。特に選果場、集荷場、倉庫等、機械が稼働する場所ではリスクが高い。リスク評価を内部でも実施し、**JA内部から改善対策を実施する。**

19

JAと生産者がそれぞれ共有しながら次に活かす

